

年報第18号 出来事ほか

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金沢大学, 大学院医薬保健総合研究科医学専攻脳老化・神経病態学 (神経内科学) メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00051194

金沢大学 神経内科

年 報

第 18 号

2017 年 1 月～2017 年 12 月



金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 医学専攻
脳老化・神経病態学(神経内科学)

<http://neurology.w3.kanazawa-u.ac.jp>

目 次

年報第18号の刊行にあたって	1
[1] 出来事・人事異動	4
[2] 診 療	18
[3] 症例検討会・各種カンファレンス	24
[4] 教育活動	34
[5] 業 績	46
(1) 論文・著書	46
(2) 学会・研究会等	61
(3) その他の対外活動（委員会、取材など）	86
(4) 学会、研究会等の主催	90
[6] 研究助成	92
[7] 専門医等	95
[8] 褒 賞	95
[9] 関連病院の施設紹介	96
[10] 留学記	104
[11] 大学在籍者名簿	106
編集後記	109

年報第18号の刊行にあたって

2017年（平成29年）の当教室の診療、教育、研究活動の記録を年報第18号としてまとめました。学内、関連施設、国内外の方々から数多くのご支援、ご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

2017年、世界をみると、米国ではドナルド・トランプ氏が1月に大統領に就任し、米国の国益を徹底的に追求する「America First」を旗印に、オバマ前大統領が進めた国際協調の流れを次々覆し、環太平洋経済連携協定（TPP）からの離脱や、地球温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」からの離脱などを表明しました。北朝鮮は核実験と弾道ミサイル発射実験を繰り返し、ミサイルは米国本土にも到達可能なレベルに達し、朝鮮半島情勢の緊張が高まりました。2月には、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長の異母兄、金正男氏が、マレーシアのクアラルンプール国際空港で神経毒 VX を用いて殺害され、北朝鮮による犯行が強く疑われました。

国内では、天皇陛下の退位を実現するための特例法が成立しました。政府は退位日を2019年（平成31年）4月30日とし、翌5月1日に新天皇が即位され新しい元号となることを決定しました。安倍政権は最近ではめずらしく長期政権になっていますが、学校法人「森友学園」や「加計学園」を巡る問題で内閣支持率が低下しました。神奈川県座間市のアパートの一室から、切断された計9人の遺体が発見され、部屋の住人が逮捕されました。被害者は女子高校生を含む若い男女で、ツイッターで自殺志願者を探し「自殺を手伝う」と自宅に誘って殺害したとみられており、昨年の相模原事件に続いて、かつては考えられなかったような犯罪が起こるようになりました。

明るい話題としては、中学生でプロ入りした将棋の最年少棋士藤井聡太四段がデビュー以来公式戦29連勝の新記録を6月に樹立しました。また、6月に上野動物園でジャイアントパンダの赤ちゃん「シャンシャン（香香）」が誕生しました。1972年、私が高校生の頃、初めてわが国に「ランラン（蘭蘭）」と「カンカン（康康）」の2頭のパンダが来た時に、上野動物園の周りをぐるりと囲む長蛇の行列に並んで見に行きました。今回は、12月から1日400組限定（抽選）で公開が始まりましたが、あまりに高い競争率（数百倍）であっけなく落選しました。

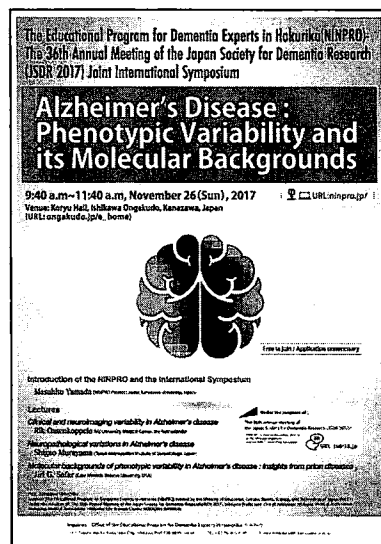
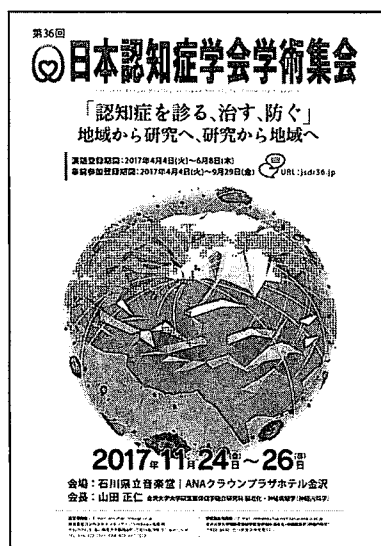
医療面の話題の1つは新しい専門医制度です。2017年4月から新専門医制度がスタートする予定でしたが、日本専門医機構は開始時期を1年後の2018年4月に延期しました。神経内科専門医は、これまでは、内科認定医の2階に乗っているサブスペシャリティでしたが、今後は内科認定医がなくなり新内科専門医のみになるため、従来と較べて長期に渡る多数例を含む内科研修が求められるようになります。

このたびの専門医制度の再整備をきっかけに、日本神経学会は「神経内科専門医のあり方」について検討してきました。その結果、神経内科は専門医制度における基本領域化をめざすこととなりました。これは、脳神経疾患診療において神経内科のカウンターパートである脳神経外科や精神科の専門医が基本領域であるため、認知症、脳卒中など脳神経関連の専門科が協力して診療に当たらなければならない重要な領域において、不都合な「ねじれ」現象が生じていることなどが理由です。神経内科専門医の基本領域化は、神経内科が内科から独立し一方的に基本領域化を進めるというものではなく、日本専門医機構、日本内科学会ほかと十分話し合い、理解を得た上で実現しようとするものです。

当教室では、2017年11月24日～26日、石川県立音楽堂・ANAクラウンプラザホテル金沢にて第36回日本認知症学会学術集会(会長:山田正仁)を開催いたしました。認知症学会は、科学的根拠に基づく認知症診療・予防等を実践し認知症を克服するために、さまざまな専門家や研究者が一堂に会する場です。本学会としては過去最高の3,530名の参加者がありました。運営にあたり、多くの関係者のすばらしいチームワークに感謝いたします。

メインテーマとして「認知症を診る、治す、防ぐ: 地域から研究へ、研究から地域へ」を掲げました。地域や臨床の現場における認知症の問題、認知症の基礎研究、新しい診断・治療法の開発、地域における認知症予防、専門家の育成などの課題について発表や討論が行われました。一般演題以外のプログラムとして、プレナリーレクチャー、学術教育講演、外国人演者をお招きしたシンポジウム、NeuroCPC、多職種連携ワークショップ、ホットトピック徹底討論など40あまりの企画をもちました。また、私がプロジェクトリーダーを務める文部科学省の事業「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)」と本学会のジョイント企画として、アルツハイマー病の国際シンポジウムと認知症の市民公開講座を同時開催いたしました。

私はこれまで、アミロイドをキーワードに、アルツハイマー病、非アルツハイマー型認知症(神経原線維変化型老年期認知症、レビー小体型認知症)、脳アミロイドアンギオパチー、プリオン病などの認知症疾患を研究してまいりましたが、会長講演では、2000年に金沢大学に赴任した後に始めた一連の研究「認知症地域コホート研究を起点とする予防・治療法の開発」につい



て講演いたしました。プレナリーレクチャーやシンポジウムなどのプログラムでは、外国からの招待講演者10名を含め、認知症の疫学、臨床、ケア、施策に至るまで、最新の知見が紹介され活発な討論が行われました。2017年、私を含む国際コンソーシアムはレビー小体型認知症の診断基準・治療ガイドラインを12年ぶりに改定しましたが、ホットトピックとしてコンソーシアムの中心である Ian McKeith 教授 (Newcastle 大学) にプレナリーでご講演いただきました。

また、2017年9月29日～30日に第5回日本難病医療ネットワーク学会 (会長: 山田正仁、副会長: 駒井清暢) を金沢で開催いたしました。全国から難病医療に携わる約500名の方々のご参加をいただきました。併せて、ご支援を感謝いたします。

この年報第18号を皆様方に御高覧いただき、今後も一層の御指導を賜わりますことができましたら誠に幸いに存じます。

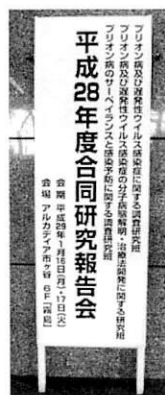
2018年3月
山田正仁



[1] 出来事・人事異動

(1) 2017年医局の出来事

2017年1月16-17日 平成28年度プリオン班合同研究報告会
(アルカディア市ヶ谷、東京)



2017年2月25日-26日 医局スキーツアー (ジャム勝山、福井)



2017年3月16日 なかじまプロジェクト谷内地区結果説明会



2017年3月20日 平成29年度 なかじまプロジェクト市民公開講座
(能登演劇堂、七尾) (90ページ参照)



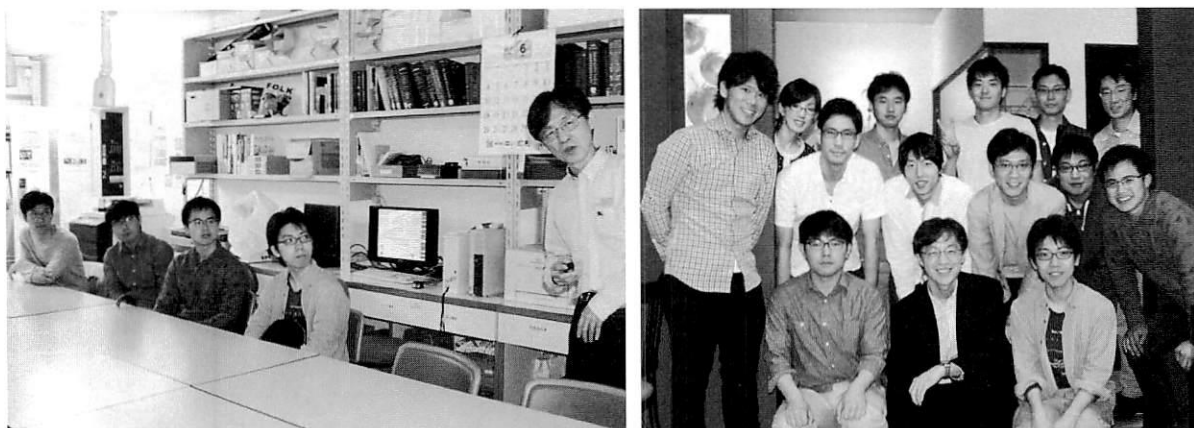
2017年3月21日 医局送別会 (オステリア デル カンパーニュ、金沢)



2017年5月2日 新人歓迎会 (タブリエ、金沢)



2017年6月10日 金沢大学神経内科医局説明会（ヴァンベール、金沢）



2017年6月20日 医局送別会（JO-HOUSE、金沢）



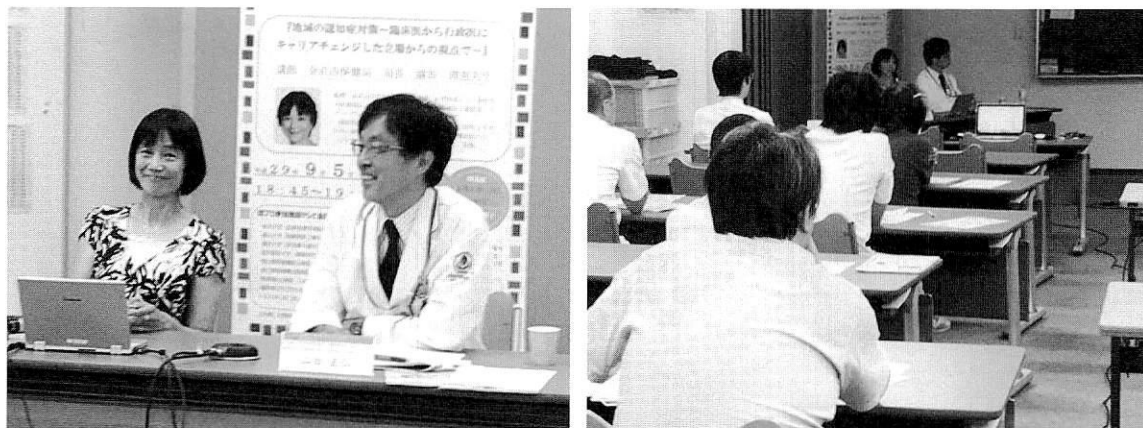
2017年7月22-23日 第13回神経内科アカデミーを開催
（38～40ページ参照）

2017年7月28日 第3回認知症チーム医療・ケアセミナー&
第2回認知症地域連携・多職種ワークショップ

川畑信也先生（八千代病院）、荒井由美子先生（国立長寿医療研究センター）、
菅沼直樹先生（金沢大学）（43ページ参照）



2017年9月5日 第3回キャリアアップ支援セミナー&
第3回認知症地域連携・多職種ワークショップ
越田理恵先生（金沢市保健局）（43～44ページ参照）



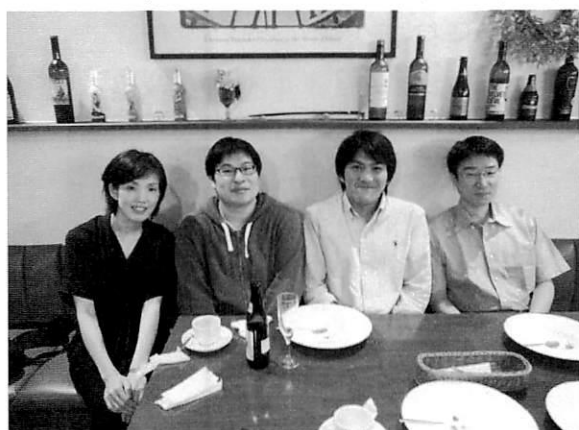
2017年9月19日 金沢大学神経内科同門会（祇をん八咫、京都）



2017年9月29日-30日 第5回日本難病ネットワーク学会
（地場産業振興センター、金沢）



2017年10月10日 金沢大学神経内科医局説明会（チェルキオ、金沢）

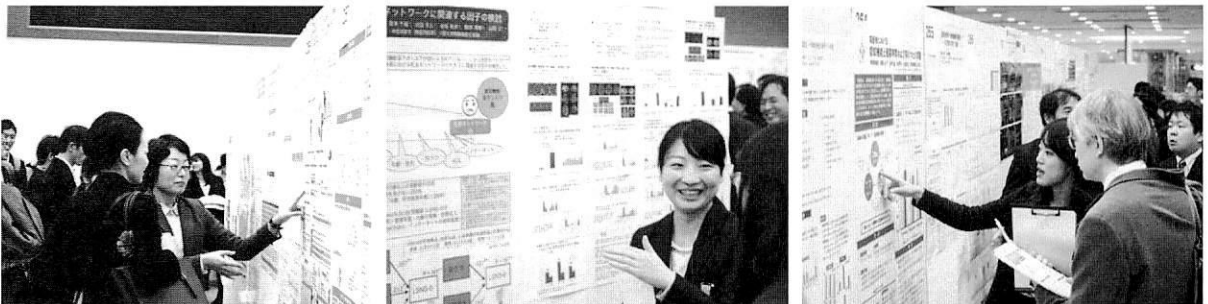


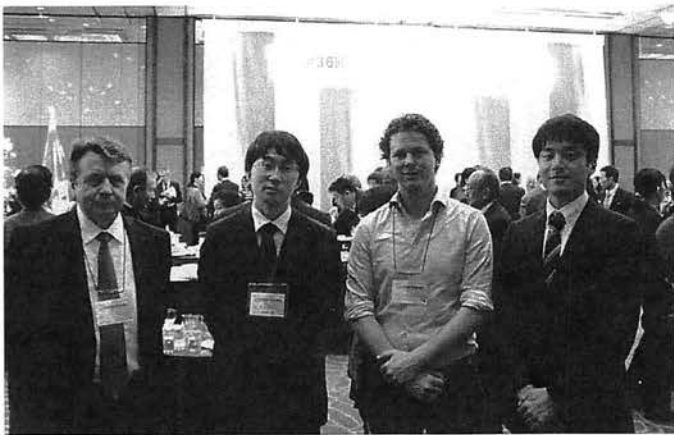
2017年11月9日 第32回ニューロサイエンスセミナー
垣塚 彰先生（京都大学 教授）（33ページ参照）



2017年11月24-26日 第36回日本認知症学会学術集会
（石川県立音楽堂／ANAクラウンプラザホテル、金沢）







2017年11月26日 The Educational Program for Dementia Experts in
Hokuriku (NINPRO) – The 36th Annual Meeting of the Japan Society for
Dementia Research (JSDR2017) Joint International Symposium

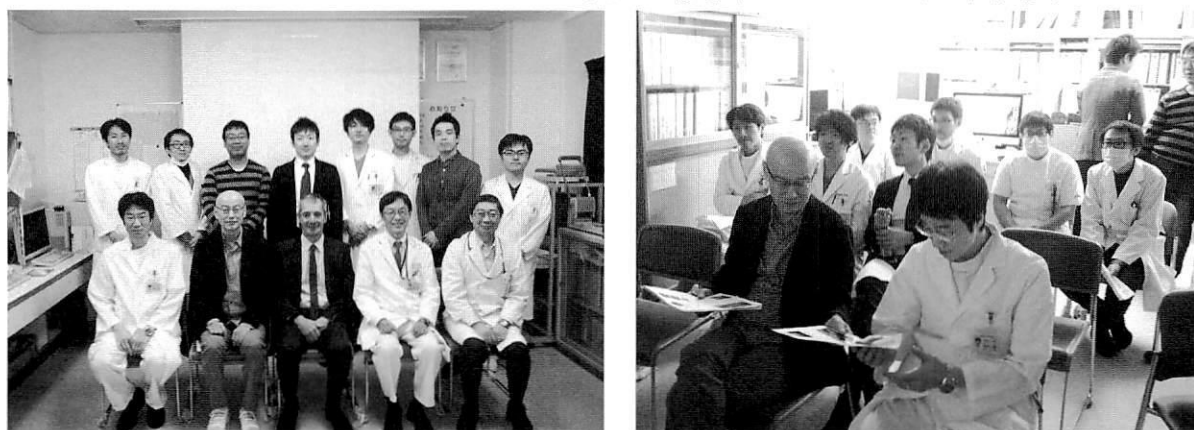
(石川県立音楽堂、金沢)



2017年11月26日 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ） -
第36回日本認知症学会学術集会ジョイント企画 認プロ第4回市民公開講座
（石川県立音楽堂、金沢）



2017年11月27日 Research meeting with Prof Ian McKeith
Ian McKeith 先生（英国 Newcastle 大学教授）



2017年12月9日 金沢大学神経内科同門会・学術集会／総会
（アパホテル金沢駅前、金沢）（14～17ページ参照）

2017年12月15日 金沢大学神経内科医局説明会（ヴァンベール、金沢）



2017年12月26日 医局忘年会（南国酒家、金沢）



<2017年4月 医局集合写真>

(2) 大学人事異動

2017年4月

<転入>

野崎 一 朗：ボン大学より特任助教へ
赤木 明 生：医王病院より特任助教へ
山口 浩 輝：福井県立病院より医員・大学院博士課程へ
島 綾 乃：富山市民病院より医員・大学院博士課程へ
清水 愛：医王病院より医員へ
柏原 健 伸：金沢大学附属病院前期研修医より医員（後期研修医）へ

<転出>

池田 篤 平：金沢大学より医王病院へ
池田 芳 久：金沢大学より厚生連高岡病院へ
小松 潤 史：金沢大学より富山県立中央病院へ
林 幸 司：金沢大学より革新ゲノム情報学分野へ
多田 康 剛：金沢大学より富山市民病院へ
村松 大 輝：金沢大学より福井県立病院へ

<昇任>

中野 博 人：医員・大学院博士課程より特任助教・大学院博士課程へ

2017年7月

<転出>

兼元 みずき：金沢大学より昭和大学へ

(3) 2017年 金沢大学神経内科同門会学術集会／総会

日 時：12月9日（土）

場 所：アパホテル金沢駅前

＜学術集会＞

I 一般演題

座長 野崎 一 朗

- 1) 「3年以上に渡る長期人工呼吸器管理から離脱し得た抗NMDA受容体脳炎の1例」
金沢大学 清水 愛
- 2) 「意識障害、発熱を呈した片頭痛の1例」
福井県立病院 村松 大輝
- 3) 「起立性低血圧による失神を繰り返し、免疫治療が効果的であった1例」
富山市民病院 多田 康剛
- 4) 「神経・筋難病に対するロボットスーツ「HAL」の使用経験」
医王病院 本崎 裕子
石田 千穂



II 最近のトピック

座長 濱 口 毅

「内科の新専門医制度と神経内科診療について」

金沢大学 坂 井 健 二

「日本神経学会の基本領域化に向けた動向」

金沢大学 山 田 正 仁

III 海外留学報告

座長 岩 佐 和 夫

「ドイツ旅物語」

金沢大学 野 崎 一 朗

IV 表 彰

高 守 正 治 同門会会長

1) 第 1 1 回 金沢大学神経内科同門会高守賞

金沢大学 濱 口 毅

Hamaguchi T, Taniguchi Y, Sakai K, Kitamoto T, Takao M, Murayama S, Iwasaki Y, Yoshida M, Shimizu H, Kakita A, Takahashi H, Suzuki H, Naiki H, Sanjo N, Mizusawa H, Yamada M. Significant association of cadaveric dura mater grafting with subpial A β deposition and meningeal amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol* 132:313-315, 2016

金沢大学 中 村 桂 子

Nakamura K, Mori F, Kon T, Tanji K, Miki Y, Tomiyama M, Kurotaki H, Toyoshima Y, Kakita A, Takahashi H, Yamada M, Wakabayashi K. Accumulation of phosphorylated α -synuclein in subpial and periventricular astrocytes in multiple system atrophy of long duration. *Neuropathology* 36:157-167, 2016

Nakamura K, Mori F, Tanji K, Miki Y, Toyoshima Y, Kakita A, Takahashi H, Yamada M, Wakabayashi K. α -synuclein pathology in the cranial and spinal nerves in Lewy body disease. *Neuropathology* 36:262-269, 2016

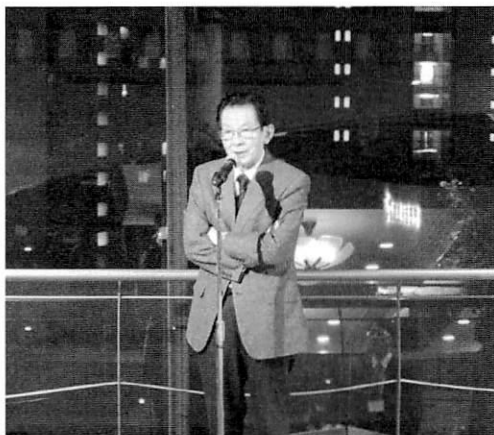
2) 第11回 金沢大学神経内科同門会奨励賞

金沢大学 中野 博 人

Nakano H, Yanase D, Yamada M. Syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone (SIADH) associated with lateral medullary syndrome: case report and literature review. *BMC Neurol* 16:119, 2016



～ 懇親会 ～





金沢大学神経内科同門会集合写真（2017年12月9日）

[2] 診 療

(1) 外来実績

外来診療は、初診医と再診医にわけて行っております。初診は完全予約制としており、予約のない方は予約を取って受診していただいています。

今年度は昨年度と比較して、初診患者数および再診患者数ともに大きな変化はありませんでした。ただ、紹介状なしで受診された初診患者数が年間を通して3例とかなり減少しており、大学病院の初診外来を受診するには紹介状が必要であるということを経験院全体で強調してきた成果が表れているのではと考えています。

初診の完全予約制により、他院からご紹介いただく先生方にはお手数をおかけしていると思います。来年度以降に関しましても、何卒ご協力をお願い申し上げます。

当科では時間をかけてしっかりと認知症疾患を診断・加療するために、「もの忘れ外来」を通常外来とは別に完全予約制で行っております。「もの忘れ外来」は、WAIS-III や WMS-R といった神経心理検査や脳脊髄液中のアミロイドβ蛋白 (Aβ) 42 やリン酸化タウ濃度、公立松任石川中央病院と共同で行なっている FDG-PET、PIB-PET 検査など、大学病院以外では行うことが困難な検査も行い、より正確な診断に基づいて治療方針を立てること目指しています。社会的にも質の高い認知症診療の必要性が高まっており、今後も高い水準の診療を提供して参る積りです。

神経内科の対応する症状は多岐にわたります。更に高齢化の進行や医療の専門化などにより、院内外の複数の科を受診する患者さんも多く、今後も院内外の先生方とも連携しながら、患者さん一人一人にあった適切な外来診療を行っていきたいと考えております。

最後になりましたが、お忙しい中、医王病院より大学病院の外来診療の応援に来ていただいている高橋和也先生に御礼申し上げますと共に、外来事務業務をしていただいている蔵谷さん、泉さんに深謝いたします。

(外来医長 濱口 毅)

表 外来患者数 (2017年)

月	医 事 課 集 計				神 経 内 科 集 計			
	患者数 合計 (人)	再診	初診	入 院 中 他科受診	初 診			
		患者数 (人)	患者数 (人)	患者数 (人)	初診患者数 (人)	院内紹介 (人)	院外紹介 (人)	紹介状なし (人)
1	654	583	22	49	52	34	18	0
2	683	594	23	66	67	45	21	1
3	847	756	28	63	57	30	25	2
4	712	617	30	65	64	34	30	0
5	633	552	22	59	48	27	21	0
6	772	685	25	62	64	37	27	0
7	735	663	23	49	53	33	20	0
8	639	573	22	44	44	24	20	0
9	737	666	22	49	61	36	25	0
10	729	669	22	38	63	34	29	0
11	680	614	25	41	54	32	22	0
12	751	683	24	44	51	28	23	0
合計 (前年比%)	8572 (101.8)	7655 (103.0)	288 (100.7)	629 (89.3)	678 (98.5)	394 (92.3)	281 (111.5)	3 (33.3)

2017年度 外来担当医

曜 目	月	火	水	木	金
初 診	岩佐 濱口		坂井	赤木	野崎
再 診 * 紹介初診患者含む	山田* 岩佐	高橋	濱口 吉川* 赤木	山田* 岩佐 野崎	坂井 篠原
もの忘れ外来 (午後) (週は不定)	濱口		坂井	山田	野崎

(2) 病棟

神経内科の病棟は東2階にあり、神経内科、精神科、核医学科の混合病棟です。神経内科としての定床は20床ですが、緊急入院も多く、定床数を超えての入院がほぼ通年にわたってみられました。そのため、入院予約された患者様の入院までの待機期間が延びてしまい、例年のことではあるものの少しでも入院待機期間が短くなるよう改善点を見つけていければと思っております。近年入院患者数は増加傾向にあり、今年（2017年1月～12月）の退院患者のべ人数は197例でした。病棟担当医の先生方の頑張りはもちろんのこと、多くの重症患者、緊急入院などを引き受けていただいた東病棟2階の看護師をはじめとしたスタッフの方々に深く御礼申し上げます。また大学病院のみでは担当できない患者様の診療を快くお引き受けいただきました関連病院の先生方にも心より深謝申し上げます。

入院症例の内訳は以下に示すとおりで、運動ニューロン病、パーキンソン症候群などの変性疾患が中心ではありますが、多発性硬化症などの自己免疫疾患、髄膜炎をはじめとする感染症など疾患は多岐にわたっています。大学では診断困難な症例も多いですが、1年で幅広くいろいろな症例を経験できる点で研修には有意義と思われれます。変性疾患を扱う一方で、救急対応を求められる疾患も多く、その点でもバランスよく研修できるのではないかと思います。

神経内科の分野は新しい疾患が増えるとともに、従来知られている疾患にも新しい知見が加わるなど、近年その進歩は目覚ましいものがあります。したがって、基本的な知識を身につけることはもちろんのこと、最新の知見を学び、患者様の診断、治療にあたっていくよう日々研鑽していく必要があります。頻度の高い脳血管障害から稀な変性疾患、免疫性疾患まで幅広い疾患に対応できるよう、毎朝のカンファレンスを通じてチームで意見交換しあって研鑽に努めています。

医師や看護師以外にもMSW、臨床工学技士、病棟事務、医局事務、臨床心理士等の方々など多くの職種の皆様に病棟運営に尽力いただきました。ご協力に深く感謝します。

(病棟医長 野崎一朗)

＜疾患内訳＞	(例数)
血管障害	26
脳梗塞	19
脳出血	1
脊髄梗塞	1
一過性脳虚血発作	3
硬膜動静脈瘻	2
感染症・炎症性疾患	15
無菌性髄膜炎	1
細菌性髄膜炎	1
急性単純ヘルペス脳炎	1
肥厚性硬膜炎	3
サルコイドーシス	1
抗 MOG 抗体陽性髄膜脳炎	1
原因不明の髄膜脳炎	2
自己免疫性脳炎	2
感染後白質脳症	1
視神経炎	1
横断性脊髄炎	1
変性疾患	44
筋萎縮性側索硬化症	8
原発性側索硬化症	1
球脊髄筋萎縮症	1
その他の運動ニューロン病	5
脊髄小脳変性症	1
多系統萎縮症	2
Parkinson 病	5
進行性核上性麻痺	6
大脳皮質基底核症候群	2
分類不能の Parkinson 症候群	4

Creutzfeldt-Jakob 病	2
Huntington 病	2
有棘赤血球舞蹈病	1
17 番染色体に連鎖する家族性前頭側頭型認知症パーキンソニズム	1
Alzheimer 病	2
特発性基底核石灰化症	1
筋・神経筋接合部疾患	1 8
重症筋無力症	9
皮膚筋炎	1
封入体筋炎	2
原因不明のミオパチー	3
原因不明の筋炎	3
末梢神経障害	3 3
家族性アミロイドポリニューロパチー	1 2
抗 MAG 抗体陽性ニューロパチー	3
多巣性運動性ニューロパチー	1
腕神経叢炎	2
多発神経根炎	1
圧迫性橈骨神経麻痺	2
Charcot-Marie-Tooth 病	2
アミロイドーシス	1
抗 GQ1b 抗体症候群	1
薬剤性末梢神経障害	1
感染性末梢神経障害	1
原因不明の末梢神経障害	6
脱髄性疾患	1 0
多発性硬化症	8
中枢末梢連合脱髄症	2

てんかん	5	
内科・全身性疾患に伴う神経疾患	14	
傍腫瘍性症候群		1
糖尿病性筋萎縮症		1
低カリウム性ミオパチー		1
肝性脳症		2
甲状腺眼症		1
腫瘍浸潤による海綿状静脈洞症候群		4
腫瘍浸潤による多発脳神経障害		1
脳悪性リンパ腫		3
その他	32	
精神疾患		6
脊椎関連疾患		6
良性発作性頭位性眩暈		1
オプソクローヌス・ミオクローヌス症候群		1
脳表ヘモジデローシス		1
平山病		1
胚腫		1
ポストポリオ症候群		1
アルコール性脳症		1
原因不明の白質脳症		1
原因不明の多発脳病変		4
原因不明の小脳失調		1
原因不明の脊髄症		4
原因不明の後根神経節障害		2
原因不明のるい瘦		1
	計	197 例

[3] 症例検討会・各種カンファレンス

(1) 症例検討会

日付	年齢	性別	題名	疾患名 (疑い例を含む)	主治医
1/10	69	M	左下肢優位の進行性筋力低下と左上下肢体幹の感覚障害を呈した1例	Sensory-motor polyradiculopathy	村松、小松、池田 ^篤
1/17	38	M	ステロイド治療に反応した左慢性視神経炎の1例	Idiopathic optic neuritis	中野、小松、池田 ^篤
1/24	24	M	フィジーに渡航歴があり、出血を伴う髄膜脳炎の1例	Encephalitis	林、兼元、坂井
1/31	37	M	発熱、発汗異常を伴った難治性痙攣の1例	Encephalitis	中野、柏原、小松、池田 ^篤
2/7	69	F	胸腺腫を合併した多発脳病変の1例	Disseminated encephalopathy with MG and thymoma (post op.)	石黒、柴田、岩佐
2/14	54	M	難聴、1型糖尿病を発症し、るいそう、白質病変、認知機能障害など多彩な症状を来した1例	Parkinsonism with muscle weakness and dementia	多田、池田 ^芳 、濱口
2/21	39	M	肝移植後も症状進行を認めた Leu58Arg ATTR アミロイドシスの1例	Familial amyloid polyneuropathy (Leu58Arg)	林、兼元、坂井
3/7	81	M	長期間の前立腺癌罹患中に認めた緩徐進行性の四肢筋力低下・感覚障害の1例	Myelopathy due to cervical canal stenosis, prostate cancer	柏原、中野、小松、池田 ^篤
3/14	37	M	多臓器不全を呈した難治性痙攣の1例(死亡症例検討会)	Encephalitis with multiple organ dysfunction syndrome	中野、小松、池田 ^篤
3/21	51	M	帯状疱疹後に上肢運動麻痺を来した1例	Varicella-zoster virus-induced myeloradiculopathy	多田、池田 ^芳 、濱口
3/28	24	M	フィジーに渡航歴があり、出血を伴う髄膜脳炎の1例	Encephalitis	林、兼元、坂井
4/4	76	F	神経筋サルコイドシスの1例	Sarcoid myelopathy	柴田、坂井
4/11	40	M	中枢と末梢に及ぶ脱髄性病変が疑われた1例	Combined central and peripheral demyelination	清水 ^愛 、赤木、岩佐
4/18	67	M	亜急性に進行し、自然経過で一部改善を認めた脳症の1例	Encephalopathy	島、濱口

日付	年齢	性別	題名	疾患名 (疑い例を含む)	主治医
4/25	17	M	血清PR3-ANCA陽性を認めた脳病変の1例	Encephalitis	山口、兼元、野崎
5/2	76	M	頭蓋内出血と右ヒラメ筋静脈血栓を合併した単純ヘルペスウイルス脳炎の1死亡例(死亡症例検討会)	Herpes simplex virus encephalitis	清水 ^愛 、赤木、岩佐
5/9	17	M	感冒症状ののちに多彩な神経症状を呈した1例	Psychosomatic disorder	能崎、柴田、坂井
5/16	62	F	免疫治療に抵抗性の多発性硬化症の1例	Multiple sclerosis	島、濱口
5/23	49	F	感染症状に続発した急性脊髄炎の1例	Transverse myelitis	柏原、赤木、岩佐
5/30	56	M	両側肩甲帯の筋萎縮と筋力低下を伴い、L-dopaが有効であるパーキンソニズムの1例	Parkinsonism with muscle atrophy	山口、兼元、野崎
6/6	74	M	右下肢に強い痙縮と不随意運動を呈した1例	Primary lateral sclerosis with involuntary movement	能崎、柴田、坂井
6/13	49	M	下肢の異常感覚や脱力感に続発して膝関節可動域制限が出現した1例	Lyme disease	清水 ^愛 、柏原、赤木、岩佐
6/20	53	M	経過で改善と増悪を繰り返した代謝性の中枢神経障害を疑う1例	Metabolic myelopathy	利波、島、濱口
6/27	44	F	一過性の眼瞼下垂ののち、急性に眼球運動障害と複視が出現した1例	Invasion of nasopharyngeal carcinoma	清水 ^愛 、赤木、岩佐
7/4	58	M	両側基底核と歯状核、視床枕と深部白質に石灰化を認めた認知機能障害の1例	Idiopathic basal ganglia calcification	山口、兼元、野崎
7/11	78	M	心肺停止状態で搬送されたパーキンソニズムの1例(死亡症例検討会)	Parkinson's disease	柏原、赤木、岩佐
7/18	35	M	Brugada症候群後に若年でParkinsonismを発症し、脳波異常を呈した1例	Juvenile Parkinson's disease	柴田、坂井
7/25	17	F	過換気症状を初発として、その後多彩な神経症状が出現した右前頭葉病変の1例	Autoimmune meningoencephalitis	清水 ^愛 、赤木、岩佐

日付	年齢	性別	題名	疾患名 (疑い例を含む)	主治医
9/5	75	M	長大な頸髄病変を呈した1例	Spinal cord tumor	柴田、坂井
9/12	70	F	頭部MRIで点状造影効果を伴い、皮質を含む白質主体の多発脳病変が経過で再発、寛解を認めた1例	Autoimmune encephalopathy	清水 ^愛 、赤木、岩佐
9/26	54	F	多発脳病変の1例	Brain malignant lymphoma	柏原、赤木、岩佐
10/3	76	M	腺様嚢胞癌の経過中に多発脳神経麻痺が出現、進行した1例	Skull metastatic tumor	島、坂井
10/10	47	F	比較的若年で発症したPSP syndromeの1例	Progressive supranuclear palsy syndrome	山口、野崎、濱口
10/17	65	F	EGPAを基礎疾患としてβDグルカン陽性となり、多彩な神経症状を呈した肥厚性硬膜炎の1例	Pachymeningitis	柴田、坂井、岩佐
10/24	21	F	韓国滞在中に急速に進行する意識障害で発症した髄膜脳脳幹脊髄根炎の1例	Autoimmune or infectious meningoencephalitis	島、坂井
10/31	42	M	緩徐に進行した運動性ニューロパチーの1例	Multifocal motor neuropathy	清水 ^愛 、赤木、野崎
11/7	68	F	認知機能障害、下肢筋力低下を来し、大脳白質病変と脳脊髄萎縮を認めた1例	Leukoencephalopathy	柏原、赤木、野崎
11/14	60	M	多発脳病変を伴う全身性毛細血管漏出症候群を疑われた1例(死亡症例検討会)	Systemic capillary leak syndrome	山口、濱口
11/21	41	F	治療開始までに時間を要した腕神経叢炎(神経痛性筋萎縮症)の1例	Brachial plexitis	柴田、岩佐
12/5	68	F	比較的経過が長く、側弯を伴ったALS疑いの1例	Amyotrophic lateral sclerosis	島、坂井
12/19	75	M	Ⅱ型呼吸不全のため死亡したALS疑いの1例(死亡症例検討会)	Amyotrophic lateral sclerosis	山口、濱口
12/26	21	M	繰り返す運動感覚障害を呈し、家族歴を有する若年男性の1例	Neuropathy	柴田、岩佐

(2) CPC(金沢大学/医王病院)

日付	年齢	性別	臨床診断	臨床担当医	病理診断	病理担当医
2/21	66	M	Familial amyotrophic lateral sclerosis	赤木、尾崎 (医王)	Amyotrophic lateral sclerosis	赤木 (医王)
	78	F	Sporadic Creutzfeldt-Jakob disease	小松、池田 ^芳 、清水 (医王)	Creutzfeldt-Jakob disease	坂井
4/18	79	F	Parkinson's disease	石田 (医王)	Lewy body disease	石田 (医王)
6/27	60	M	Familial amyotrophic lateral sclerosis with SOD1 mutation	池田 ^篤 (医王)	Familial amyotrophic lateral sclerosis	石田 (医王)
	71	F	Multiple system atrophy	田上 (医王)	Multiple system atrophy	坂井
7/11	46	M	Acute autonomic sensory neuropathy	中野	Acute autonomic sensory neuropathy	中野、坂井 大井 (第一病理)
9/12	69	F	Multiple system atrophy	尾崎 (医王)	Multiple system atrophy	石田 (医王)
	88	F	Parkinson's disease	本崎 (医王)	Lewy body disease	坂井
12/19	56	F	Amyotrophic lateral sclerosis	島 ^啓 (石川県中)、石田 (医王)	Amyotrophic lateral sclerosis	石田 (医王)
	73	F	Amyotrophic lateral sclerosis	島 ^綾 、駒井 (医王)	Amyotrophic lateral sclerosis	坂井
	74	F	Multiple system atrophy	赤木	Multiple system atrophy	赤木

(3) 生 検

疾患内訳（臨床診断（疑い病名含む））

筋	炎症性ミオパチー（多発筋炎・皮膚筋炎・封入体筋炎含む）	14
	運動ニューロン疾患	1
	ミトコンドリア病	1
	血管内リンパ腫	1
	サルコイドーシス	1
	合計	18例
神経 ・ 脳	ポリニューロパチー	5
	血管炎	1
	悪性リンパ腫	1
	脳症	1
	髄膜炎	1
	合計	9例

所属内訳

所 属	検体数
金沢大学附属病院 神経内科	9
” 他科	5
石川県立中央病院 神経内科	9
金沢医療センター 神経内科	1
福井県立病院 神経内科	1
医王病院 神経内科	1
富山県立中央病院 神経内科	1
計	27

(4) 生検カンファレンス

日付	臨床診断	所属	担当医
1/30	ミオパチー	当科	中野、濱口
	多発筋炎	富山県立中央病院	高橋良
	M蛋白関連ニューロパチー	石川県立中央病院	山口和
2/6	ミオパチー	当科	中野、濱口
	筋炎	金沢医療センター	坂尻
2/20	アミロイドーシス	当科	中野、濱口
	筋炎の疑い	当科	村松、小松、 池田篤
2/27	多発筋炎	金沢医療センター	新田
	筋炎	当院腎臓内科 1	山口綱、池田篤
	皮膚筋炎	厚生連高岡病院	坂下
3/27	封入体筋炎	石川県立中央病院	松本
	筋炎	当院腎臓内科 1	押田、池田芳
4/10	筋ジストロフィー疑い	当科	中野、小松、 池田篤
5/8	ミオパチー	富山市民病院	島綾
	サルコイドーシスの疑い	当院循環器内科 2	田村、坂井
5/29	家族性ニューロパチー	医王病院	島綾
	末梢神経障害	当科	柏原、中野、小松、 池田篤
6/12	多発筋炎	金沢医療センター	坂尻
6/26	血管炎性ニューロパチー	富山市民病院	島綾
	悪性関節リウマチ	当院リウマチ内科 2	鈴木、坂井
7/3	炎症性ミオパチー	石川県立中央病院	山口和
7/24	運動ニューロン疾患	医王病院	朝川

日付	臨床診断	所属	担当医
9/25	ミトコンドリア病疑い	石川県立中央病院	松本
10/2	抗 SGPS 抗体陽性ニューロパチー	当科	柏原、赤木、岩佐
10/30	髄膜脳炎	当科	林、坂井
	CMT 疑い	当科	能崎、柴田、坂井
	封入体筋炎疑い	福井県立病院	尾崎
11/13	多発筋炎	石川県立中央病院	島啓
	PBC 合併筋炎疑い	当科	柴田、坂井
12/4	感覚性末梢神経障害	石川県立中央病院	松本
	多発筋炎	当院リウマチ内科 2	濱口
12/11	封入体筋炎	石川県立中央病院	松本
12/25	筋炎	富山県立中央病院	中村
	皮膚筋炎	当院リウマチ内科 2	吉田、坂井
	皮膚筋炎	石川県立中央病院	松本

(5) 臨床神経セミナー

月1回、主に第3月曜日17時30分から神経内科、脳神経外科、神経精神科の3科合同で、症例検討会を行っています。2017年に神経内科から提示した症例を表に示します。

目付	年齢	性別	題名	主治医
1/16	80	M	Blue rubber-bleb nervus syndrome (BRBNS)による慢性DICを背景にTIAを呈した一例	柴田、小松、池田 ^篤
4/17	37	M	多臓器不全を呈した難治性けいれん重積の一例	柏原、中野、小松、池田 ^篤
5/15	17	M	血清PR3-ANCA陽性を認めた脳病変の一例	山口、野崎
6/19	17	M	感冒様症状ののちに多彩な神経症状を呈した一例	柴田、坂井
7/24	35	M	Brugada症候群後に若年でParkinsonismを発症した一例	柴田、坂井
9/11	54	F	多発脳病変の一例	柏原、赤木、岩佐
10/23	47	F	比較的若年で発症したPSP syndromeの一例	山口、濱口
11/20	34	M	免疫治療により改善した一側大脳半球限局性N型VGCC抗体陽性脳炎の一例	柴田、岩佐
12/18	31	F	3年以上に渡る長期人工呼吸器管理から離脱し得た抗NMDA受容体脳炎の一例	柏原、清水、中野、尾崎、赤木、小松、池田 ^篤 、濱口、岩佐

※ 8月は休会。2月、3月は神経内科からの発表はなし。

(6) もの忘れ外来検討会

月に1回、外来主治医、各検査担当医、心理士、なかじまプロジェクト関係者が集まり、もの忘れ外来受診患者を中心に、病歴、神経学的所見、検査所見を元に、診断、治療方針の検討を行っています。当外来初診患者総数は2017年末までで1525名となりました。検査を実施した1297名の内訳は756名（58%）が認知症（うち526名（69%）がAlzheimer病）、247名（19%）が軽度認知障害、230名（17%）が正常範囲でした。

月（2017年）	検討症例数
2月	8例
3月	6例
4月	5例
5月	8例
6月	7例
7月	10例
8月	9例
9月	4例
10月	7例
11月	10例
12月	8例

(7) 大学院生研究発表会

日付	演者	題名
10/10	林 幸司	中島コホートを用いた認知症の遺伝リスクの探求
10/17	中野 博人	Seeding 効果を修飾する外的因子についての研究/世界最速の高速原子間力顕微鏡によるA β 凝集体の形成過程の解明

(8) ニューロサイエンスセミナー

- 第31回ニューロサイエンスセミナー：平成29年11月9日
垣塚 彰：京都大学大学院生命科学研究科・高次生体統御学分野 教授
「新規創薬標的としての細胞内主要 ATPase, VCP」

[4] 教育活動

(1) 神経系疾患系統講義

●医薬保健学域医学類3～4年生

目付	項目	題名	講義担当者
1/6	総論	Neurology 入門：Neurology とは？ 神経診断学入門	山田正仁
1/13	〃	神経内科の検査(1)：神経生理学的検査、脳脊髄液検査ほか	岩佐和夫
1/20	〃	神経内科の検査(2)：病理学的検査ほか	坂井健二
1/27	各論	脳血管障害(1)	小松潤史
2/10	〃	脳血管障害(2)	濱口 毅
2/17	〃	神経変性疾患(1)：錐体外路系疾患、認知症疾患	山田正仁
3/3	〃	神経変性疾患(2)：運動ニューロン疾患、脊髄小脳変性症	石田千穂*
3/10	〃	末梢神経・自律神経系疾患	岩佐和夫
4/14	〃	神経筋接合部疾患、筋疾患	吉川弘明
4/21	〃	神経感染症、脱髄性疾患	野崎一朗
4/28	〃	神経系の発作性・機能性疾患	赤木明生
5/12	〃	神経系の代謝性・中毒性疾患、腫瘍性疾患、内科疾患に伴う神経障害	篠原もえ子
9/22	特別講義	シナプスの構造、機能と免疫	高守正治**
11/9	特別講義	神経変性疾患に共通する発症機序の解明を目指して	垣塚 彰***

*国立病院機構医王病院臨床研究部長・本学臨床准教授、本学非常勤講師

**本学名誉教授・本学非常勤講師

***京都大学教授・本学非常勤講師

(2) 基本的臨床手技実習

●医薬保健学域医学類4年生

2017年春・秋学期 総授業数 4回×4ターム＝計16回

担当者：岩佐和夫、瀧口 毅、坂井健二、篠原もえ子、野崎一朗、赤木明生

(3) 臨床講義

●医薬保健学域医学類4年生（2017年度）

（2017年5月～10月の9回）

日付	年齢	性別	題名	疾患名	講義担当者
5/19	76	F	手足のしびれ、歩行障害などの症状がみられる病気について	家族性アミロイドポリニューロパチー	山田正仁
5/26	61	M	眼瞼下垂、複視などの症状がみられる疾患について	重症筋無力症	岩佐和夫
6/2	66	M	進行性に細胞変性脱落をきたす疾患について	多系統萎縮症 (MSA-C)	岩佐和夫
6/9	73	F	歩行障害、眼球運動障害などの症状がみられる疾患について	進行性核上性麻痺	山田正仁
6/16	42	M	炎症性／自己免疫性の中樞性脱髄性疾患について	多発性硬化症	岩佐和夫
6/23	70	M	声がこもる	脳梗塞	岩佐和夫
6/30	44	M	歩行障害、複視などの症状がみられる遺伝性疾患について	遺伝性脊髄小脳変性症	山田正仁
7/7	45	F	左上肢筋力低下と歩行障害のみられる症例について	筋萎縮性側索硬化症	山田正仁
10/13	72	F	繰り返す頭痛、嘔気、嘔吐について	肥厚性硬膜炎	岩佐和夫

(4) 臨床実習 (BSL)

● 医薬保健学域医学類 5 年生

学期	開始日	終了日	グループ数	学生総数
2016年度冬学期	1月4日	3月17日	6	47
2017年度春学期	4月3日	7月7日	7	50
2017年度秋学期	10月3日	12月15日	3	21

BSL スケジュール (月曜スタート)

曜日	午前	午後
月	9:00 ガイダンス	
火	8:00 クリニカルカンファレンス、病棟教授回診	講義
水	金沢医療センター見学	
木	8:00 病棟グループ回診、外来ポリクリ (岩佐)	
金	8:00 病棟グループ回診	医王病院見学、学生 CC
月	8:00 病棟グループ回診、外来ポリクリ (山田)	
火	8:00 クリニカルカンファレンス、病棟教授回診	教授面接

BSL スケジュール (木曜スタート)

曜日	午前	午後
木	9:00 ガイダンス	
金	8:00 病棟グループ回診	医王病院見学
月	8:00 病棟グループ回診、外来ポリクリ (山田)	
火	8:00 クリニカルカンファレンス、病棟教授回診	講義
水	金沢医療センター見学	
木	8:00 病棟グループ回診、外来ポリクリ (岩佐)	
金	8:00 病棟グループ回診	学生 CC、教授面接

医学類学生に対する教育活動は、3年生から6年生に対して行っています。

3年生冬学期から4年生春学期にかけて神経内科の系統講義、4年生春学期より診断学実習（神経診察の方法）、臨床講義、チュートリアルで診断・治療までの考え方の訓練・指導を実施しています。

5年生は臨床実習を行っています。今年度も金沢医療センターと医王病院での学外実習にて急性期病院と神経難病を主に診療する病院での診療を見学することができ、学生には大変好評でした。

学外実習で御指導を賜りました新田先生、坂尻先生、駒井先生、石田先生には、この場をお借りし深謝いたします。

（教育係 篠原もえ子）

（5）大学院医学保健学総合研究科医科学専攻（修士課程）講義

坂井健二：病理病態学：神経系（1）。（2017年7月18日）

山田正仁：病理病態学：神経系（2）。（2017年7月25日）

（6）医薬保健学域薬学類「薬物治療検討会」

山田正仁：アルツハイマー病。（2017年11月14日）

岩佐和夫：パーキンソン病。（2017年11月17日）

(7) 第13回金沢神経内科アカデミー

当教室では、神経内科の魅力を医学部学生ならびに研修医に知ってもらうために、2005年より神経内科臨床および基礎研究に実際にふれてもらう機会として、金沢神経内科アカデミーを実施しています。2017年は7名の参加者を迎え有意義な臨床や研究の実習が行われました。

プログラム

7月22日(土)

- 9:45 参加者医局集合：オリエンテーション
- 10:00 病棟実習：主治医グループに参加し、患者診察や処置の見学
カンファレンスに参加
- 12:00 ～ Lunch time ～
- 13:30 中枢神経 MRI 画像の読み方 講師 赤木 明生
- 15:05 認知機能検査概要・見学
- 16:00 講演(1)「ドイツの楽しい留学ライフ」
講師 野崎 一朗
- 講演(2)「内科専門医制度と神経内科の紹介とキャリアパス」
講師 坂井 健二
- 講演(3)「ヒトにおける異常蛋白質の伝播：プリオン病から
アルツハイマー病へ」
講師 山田 正仁
- 17:45 写真撮影、終了
- 19:00 親睦会

7月17日(日)

- 9:00 医局集合：各研究実習の概要説明・実習(コース選択)
研究実習
- A) 神経病理 担当：坂井 健二
- B) 神経化学 担当：池田 篤平、中野 博人
- C) 神経免疫 担当：岩佐 和夫
- D) 認知症の疫学研究 担当：篠原 もえ子、林 幸司
- 12:00 ～ Lunch time ～
- 13:00 研究実習続き
- 15:00 終了

<参加者>

金沢大学附属病院初期研修医 2年目

金沢医科大学病院初期研修医 2年目

金沢大学 6年

金沢大学 6年

金沢大学 5年

金沢大学 4年

金沢大学 1年

疋島貞雄

岩戸美季

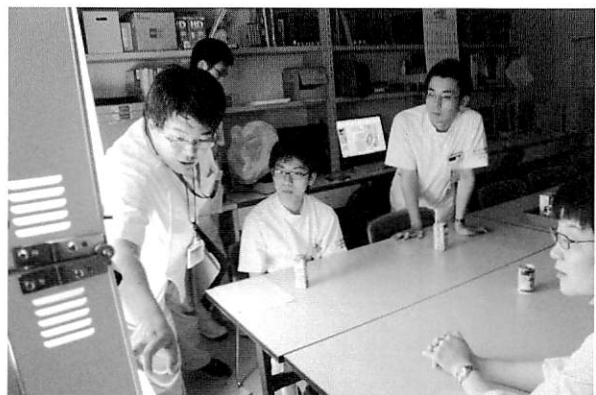
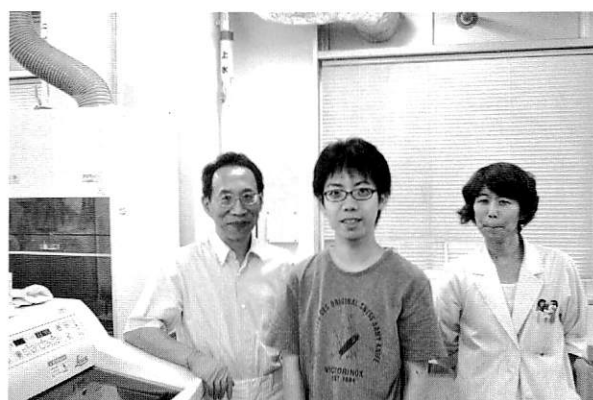
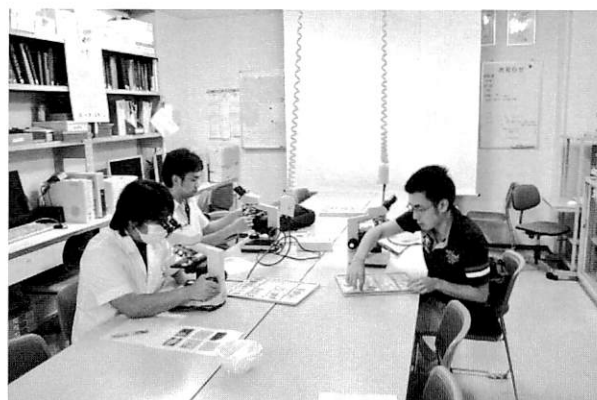
谷口 優

吉村敬介

鍛冶 稔

磯野真子

下崎 琳





(8) 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)は金沢大学神経内科が中心となり、富山大学、福井大学、金沢医科大学、関連病院等とネットワークをつくり、認知症のプロフェッショナル医を養成するためのプログラムです。文部科学省の「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の「特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成：難治性疾患診断・治療領域」の事業として採択され、平成29年度で4年目を迎えました。

大学院生を対象とし4年間で診療から研究までを履修する「本科コース」、全国の地域の病院で診療する医師が1年間で履修する「インテンシブコース」、病理や疫学の実習を中心に履修する「スペシャルコース」、更には医学部生から大学院時までの長期間履修する「スーパーコース」があります。金沢大学では現在、「本科コース」8名、「インテンシブコース」20名、「スペシャルコース」4名、「スーパーコース」2名が履修中です。また「認知症メディカルスタッフ e-learning 講座」には978名が受講しています。

認プロでは、Web上で講義を受けることが出来る e-learning 科目として、認知症の総論から各論まで計40コマの講義があります。日本中どこからでも高度な講義を受けることが可能です。認プロ科目担当教員が中心となって e-learning のテキストに該当する認知症診療の実践のためのハンドブックを出版しました(2017年11月)。

また、テレビ会議システムおよび Web 会議システムを導入し、金沢大学を含む10施設(4大学と連携6病院)を結び、リアルタイムでディスカッションをすることが可能で、定期的に症例検討会(デメンシアカンファレンス)や各種講演会・セミナーを開催しています(下記)。



(A) デメンシアカンファレンス

テレビ会議システムを利用し、認知症症例のカンファレンスを毎月1回開催しています。各大学から診断や治療に難渋した症例が提示され、毎回、活発な討論が行われてい

ます。平成29年度からはWeb会議システムによる参加も可能となり、遠方の方もリアルタイムでカンファレンスに参加することが可能となりました。

回	開催日	担当大学等	症例
第22回	1/24	金沢大学	緩徐進行性の認知障害で大脳白質病変と神経伝導検査異常を認めた1例
第23回	2/14	富山大学	急に、大声を出したり、徘徊するようになった75歳男性
第24回	3/14	福井大学	初期に注意欠如・多動性障害が疑われた若年性認知症の一例
第25回	4/25	金沢医科大学	Progressive non-fluent aphasiaの一例
第26回	5/16	金沢大学	嚥下障害と認知機能障害を認めた1例
第27回	6/20	富山大学	経過中に認知症発症が疑われた双極性感情障害の一例
第28回	7/5	福井大学	歩行障害と認知機能の低下をきたした一例
第29回	8/22	金沢医科大学	認知症性疾患の鑑別を要した遅発性統合失調症の一例
第30回	9/26	金沢大学	抗サイログロブリン抗体が陽性を示し、緩徐に進行した認知機能障害の1例
第31回	10/19	富山大学	短期記憶障害が亜急性に進行し両側海馬病変を認めた1例
第32回	11/28	福井大学	ドネペジル塩酸塩の中止後にせん妄を認めた高齢者認知症の一例
第33回	12/12	金沢医科大学	急激に進行した認知機能障害に対し、内科的治療で著効した一例

(B) FD講演会

認知症医療等の第一線で活躍する講師を招いて教員やメディカルスタッフの資質向上と最新の臨床研究に関する情報を得ることを目的とし、テレビ会議システムおよびWeb会議システムを利用してFD講演会を行っています。

回	開催日	担当大学	演者	演題
第14回	12/1	金沢医科大学	京都薬科大学 病態生理学分野 准教授 高田和幸 先生	脳ミクログリアを標的とした認知症治療戦略の開発

第 15 回	12/14	富山大学	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と介護予防研究チーム 研究部長 栗田圭一 先生	認知症とともに暮らせる社会とは何か
--------	-------	------	------------------------------------------------------------	-------------------

(C) 認知症チーム医療・ケアセミナー&認知症地域連携・多職種ワークショップ

認知症チーム医療・ケアセミナーは、認知症医療において欠かせないチーム医療やケアについて学ぶことを目的とし、認知症地域連携・多職種ワークショップは、認知症医療に携わる多職種の方の資質向上を図ることを目的としています。「認知症と自動車運転」をテーマに、平成29年7月28日、第3回認知症チーム医療・ケアセミナー&第2回認知症地域連携・多職種ワークショップを、テレビ会議システムを利用して開催しました。

はじめに、事例検討として福井県立すこやかシルバー病院より「自動車運転に固執したアルツハイマー病の一例」のタイトルで症例報告があり、活発な質疑応答、意見交換が行われました。続いて、八千代病院認知症疾患医療センター センター長 川畑信也先生より「認知症者の自動車運転：改正道路交通法の概略と認知症診療・介護への影響」、国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長 荒井由美子先生より「認知症高齢者の自動車運転を考える：ご本人および家族介護者への支援の観点から」、金沢大学 新学術創成研究機構 未来社会創造研究コア 自動運転ユニット ユニットリーダー 准教授 菅沼直樹先生より「自動運転自動車の高齢過疎地域への導入に対する期待と課題」と題してご講演いただきました。

医師だけでなく、看護師や介護福祉士、ケアマネージャー、リハビリスタッフなど幅広い職種の方々にご参加いただきました。

(D) キャリアアップ支援セミナー&認知症地域連携・多職種ワークショップ

キャリアアップ支援セミナーは、認知症診療に携わるばかりではなく、様々な立場で認知症対策に貢献する道があることを示すことを目的としたセミナーです。平成29年9月5日に第3回キャリアアップ支援セミナー&第3回認知症地域連携・多職種ワークショップを、テレビ会議システムを利用して開催しました。小児科医としての臨床経験を積まれた後、スウェーデン王立カロリンスカ医学研究所に留学され、帰国後は金沢市保健所、金沢市福祉保健局 こども福祉課 課長、金沢市教育プラザ富樫 総括施設長を歴任され

た金沢市保健局 局長 越田理恵先生をお招きし、「地域の認知症対策～臨床医から行政医にキャリアチェンジした立場からの視点で～」と題してご講演いただきました。

今回のセミナーは、平成25年度に採択された文部科学省・未来医療研究人材養成拠点形成事業「第三の道：医療革新を専門とする医師の養成」プロジェクト（金沢大学）との共催で開催いたしました。

(E) 国際シンポジウム

平成29年11月26日に、石川県立音楽堂 交流ホールにおいて、The Educational Program for Dementia Experts in Hokuriku (NINPRO) – The 36th Annual Meeting of the Japan Society for Dementia Research (JSDR2017) Joint International Symposium 「Alzheimer's Disease: Phenotypic Variability and its Molecular Backgrounds」を開催しました。

認プロ プロジェクトリーダー 山田正仁先生による「認プロ」と本シンポジウムの紹介後、Rik Ossenkoppele 先生（VU University）より「Clinical and neuroimaging variability in Alzheimer's disease」、村山繁雄先生（東京都健康長寿医療センター）より「Neuropathological variations in Alzheimer's disease」、Jiri G. Safar 先生（Case Western Reserve University）より「Molecular backgrounds of phenotypic variability in Alzheimer's disease: insights from prion diseases」と題してご講演いただきました。最新の研究成果を含めた講演を頂戴し、最先端の知見を得ることができました。また、講演後は、活発な質疑応答や討論が行われました。医師、研究者等含めて計74名の方にご参加いただきました。

(F) 第4回市民公開講座

平成29年11月26日に、石川県立音楽堂 交流ホールにおいて、文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）－第36回日本認知症学会学術集会ジョイント企画 第4回市民公開講座「認知症～みんなで知ろう・防ごう・支えよう～」を開催しました。

はじめに、認プロ プロジェクトリーダー 山田正仁先生による「認プロ」の紹介後、秋山治彦先生（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター）より「認知症とは?」、玉岡晃先

生（筑波大学）より「認知症の症状と診断」、下濱俊先生（札幌医科大学）より「認知症の治療と介護」、朝田隆先生（メモリークリニックお茶の水/東京医科歯科大学）より「本気の認知症予防」と題してそれぞれご講演いただきました。質問コーナーでは、事前に募集した質問に対して、4名の先生方にわかりやすくご回答いただきました。

計350名の市民の方々にご参加いただき、認知症について理解を深めていただく良い機会となりました。この市民公開講座については、北國新聞および北陸中日新聞に記事が掲載されました。

その他、「認知症メディカルスタッフ e-learning 講座」の継続開講、石川県立看護大学認知症看護認定看護師教育課程への e-learning 講義及び対面講義の提供など、多様な活動を行いました。

当プロジェクトの活動に当たり、医師・事務職員等、多くの方々にご尽力賜りましたことを深謝いたします。平成30年度以降もデメンシアカンファレンスや各種講演会・セミナーをはじめ、様々な活動を行う予定です。

認プロの教育コースは、いずれも認知症の診療の質を大きく向上させるものになっています。大学院に入学される先生方には「本科コース」の履修をお勧めいたします。「インテンシブコース」は認知症診療に関わる医師・歯科医師であれば、北陸に限らず、日本のどこからでも履修が可能です。ご興味のある先生方は是非ご検討ください。また「認知症メディカルスタッフ e-learning 講座」の受講も随時募集しています。認知症診療や対策に関わる全ての職種の方々（看護師、保健師、リハビリ関係者、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、研究者）が受講できます。詳細につきましては、認プロのホームページ (<http://ninpro.jp>) をご覧いただきますようよろしくお願いいたします。

（中野博人、野崎一朗）